

豊田市福祉事業団事業報告

1 総括

令和6年度は、国の定めた「第7期障がい福祉計画」及び「第3期障がい児福祉計画」の開始初年度に当たることや、障がい福祉サービス等報酬の大きな改定が行われたこと、また、当事業団の今後の事業推進の道しるべとなる「第3次豊田市福祉事業団推進計画」の計画期間が開始するなど、事業団が新たなステップを踏み出す「転換の年」と位置づけた上で、着実に事業を推進してまいりました。

こども部門では、児童福祉法の一部改正に合わせて、こども発達センターが担う地域の障がい児支援の中核的役割を今一度確認し、整え、実施しました。地域の園、学校、放課後児童クラブなどの連携を拡充したことに加え、のぞみ診療所においても、関係福祉事業所の医療職との交流を始めるなど、新たな地域連携の仕組みを構築しました。

成人部門においては、第二ひまわりでは、引き続き強度行動障がいに対する支援者の育成を進めたほか、暖では医療的ケア児者に対する地域支援の連携を強化し、市全体の支援力の向上を図りました。就労・生活支援センターとけやきワークスでは、障がい者手帳を持たない方への支援として、実習生の受入れを行い、就職に向けた支援を行いました。

また、業務支援を目的としたデジタルツールや職員の勤怠管理システムの導入など、デジタル技術の積極的な活用を通して、職員の勤務環境が改善するよう準備を進めました。

一方、令和7年2月には、こども発達センター内のトイレ扉の金属部品の落下により、利用者様が怪我を負う事故が発生してしまいました。再び事故が発生することの無いよう、改めて、施設の整備・点検を強化し、利用者様が安心して施設を利用いただける環境整備を継続していきます。

2 理事会・評議員会・監事会に関する事項

(1) 理事会の開催

■ 第1回理事会

日 時 令和6年5月31日

議 題 議案第 1号 令和5年度事業報告及び収支決算について

議案第 2号 令和6年度第2回評議員会（定時評議員会）について

報 告 報告第 1号 理事長及び業務執行理事の執行状況について

■ 第2回理事会（書面決議）

日 時 令和6年6月20日

議 題 議案第 3号 副理事長の選任について

■ 第3回理事会（書面決議）

日 時 令和6年10月4日

議 題 議案第 4号 評議員選任・解任委員会委員の選任について

議案第 5号 令和6年度第1回評議員選任・解任委員会開催について

議案第 6号 令和6年度第3回評議員会開催について

■ 第4回理事会

日 時 令和6年12月5日

場 所 こども発達センター 大会議室

議 題 議案第 7号 令和6年度第1次補正予算について

議案第 8号 令和6年度第4回評議員会について

報 告 報告第 2号 理事及び業務執行理事の執行状況について

■ 第5回理事会（書面決議）

日 時 令和6年12月26日

議 題 議案第 9号 職員給与規定の一部改正について

議案第10号 特定業務職員規程の一部改正について

議案第11号 令和6年度第2回評議員選任・解任委員会開催について

■ 第6回理事会

日 時 令和7年3月14日

場 所 こども発達センター 大会議室

議 題 議案第12号 就業規則の一部改正について

議案第13号 職員給与規程の一部改正について

議案第14号 退職手当支給規程の一部改正について

議案第15号 特定業務職員規程の一部改正について

議案第16号 臨時職員雇用規程の一部改正について

議案第17号 限定職員雇用規程の一部改正について

議案第18号 処務規程の一部改正について

議案第19号 旅費規程の一部改正について

議案第20号 令和6年度第2次補正予算について

議案第21号 令和7年度事業計画について

議案第22号 令和7年度予算について

議案第23号 令和6年度第5回評議員会について

議案第24号 施設長等の選任について

（2）評議員会の開催

■ 第1回評議員会（書面決議）

日 時 令和6年4月1日

議 題 議案第 1号 理事の選任について

■ 第2回評議員会

日 時 令和6年6月20日

場 所 こども発達センター 大会議室

議 題 議案第 2号 理事の選任について

議案第 3号 監事の選任について

議案第 4号 令和5年度収支決算について

報 告 報告第 1号 令和5年度事業報告について

■ 第3回評議員会（書面決議）

日 時 令和6年10月21日

議 題 議案第 5号 理事の選任について

■ 第4回評議員会

日 時 令和6年12月19日

場 所 こども発達センター 大会議室

議 題 議案第 6号 令和6年度第1次補正予算について

■ 第5回評議員会

日 時 令和7年3月24日

場 所 こども発達センター 大会議室

議 題 議案第 7号 令和6年度第2次補正予算について

議案第 8号 令和7年度事業計画について

議案第 9号 令和7年度予算について

（3）監事会

日 時 令和6年5月23日

場 所 こども発達センター 大会議室

議 題 令和5年度事業報告及び収支決算について

3 受託施設事業報告

〔1〕豊田市こども発達センター

令和6年度は、「児童発達支援センターの役割の強化」を明確にした「改正児童福祉法」がスタートしました。たんぽぽ、ひまわり、なのはなの3つ児童発達支援センターでは、新たな書式にそった「児童発達支援計画」の作成、必要となった申請書類の整備などを、遅滞なく実施しました。中核的機能の1つである地域支援の充実のために、連携すべき各機関に対してアンケート調査を実施したり、交流会を開催したりしました。11月に開催したセンターセミナーでは、同法の家族支援の中で追記された「きょうだい児への支援」をテーマとした講演を行いました。

ポストコロナ2年目も引き続き感染予防に留意しつつ、超早期療育の試行など次年度につなげるべき課題にも着手し、前年度策定した第3次推進計画にも着実に取り組み、時代のニーズにそった発達支援、家族支援、地域支援を展開しました。

【重点目標】

- ① 通園施設における新たな「児童発達支援計画」作成などを通して、発達支援のさらなる充実に努めます。
- ② 0・1・2歳児の超早期の支援体制を見直し、新たな支援のありかたを検討します。
- ③ 保育・福祉・教育機関における支援の質の向上につながる地域支援を展開します。
- ④ 利用者の方の利便性や業務の効率化を高めるために ICT の活用を検討し、進めます。

【重点目標達成状況】

- ① ・新しい内容や形式を整えた「児童発達支援計画」を作成するなど、今年度の児童福祉法改正に伴う制度変更に遅滞なく対応しました。
- ② ・1歳児グループに統合されている0歳児の療育に関するニーズを把握するため、令和5年度に該当していた保護者むけにアンケート調査を実施しました。その結果をもとに、0歳児の活動の場を試行的に行い、必要性和重要性を再確認しました。
- ③ ・こども園・幼稚園・学校・放課後児童クラブとの連携を、訪問支援や研修により拡充しました。
・重症心身障がい児の通う福祉事業所職員とたんぽぽ、福祉事業所医療職とのぞみ診療所など、交流会などを通じた新たな地域連携も開始しました。
- ④ ・メール配信システムを通園施設保護者にむけた情報発信に活用するなど電子化を進めました。

(1) のぞみ診療所

障がいのあるお子さんを対象とする専門医療機関として、医療支援（診断・検査・各種療法等）を通して、発達の促進を図りました。地域の医療・教育・保育・福祉機関との連携・協力体制を推進し、更なる地域支援の充実に努めました。

【重点目標】

- ① こどもにかかわる事業所等の増加を踏まえて、関係する事業所等に所属する医療スタッフの現状を把握して、専門職間の連携をより充実していきます。
- ② 訪問等の手段で地域園や学校、事業所といったこどもが生活している場の現状を把握して、医療的な視点を踏まえた現場で活用できる支援方法を提供していきます。
- ③ 感染症発生や地震等の災害のような有事の対応について具体的な対応方法の検討を行い、避難消火訓練などを行います。

【重点目標達成状況】

- ① ・前年度実施した調査結果から、地域の事業所に勤務する医療専門職種との交流会を9月に開催しました。地域医療機関に勤務する医療専門職種についても実態調査を目的にアンケート調査を実施し、10月に結果をまとめました。
・令和7年度は、事業所や医療機関で勤務する医療専門職種との交流会を開催し、横の繋がりづくりを行います。
- ② ・特別支援学校やこども園、地域の学校、放課後児童クラブなどを訪問し、障がいのあるこどもに関わる職員を対象に専門的な助言を行いました。
- ③ ・主に地震災害における避難方法を検討し、より確実かつ速やかなものとししました。

◇科別診療状況

診療科目	延べ人数	前年度比	初診	前年度比	個別療法	延べ人数	前年度比
児童精神科	7,464	105.7%	308	113.7%	理学療法	2,051	89.9%
小児神経科	4,034	115.1%	233	97.9%	作業療法	3,542	99.6%
小児整形外科	2,078	97.2%	91	105.8%	言語聴覚療法	3,506	107.3%
耳鼻咽喉科	325	100.9%	82	107.8%	心理療法・心理検査	1,732	102.7%
泌尿器科	47	74.6%	1	10.0%	個別療法等合計	10,831	100.4%
小児歯科	2,609	100.9%	92	91.1%	検査件数	2,167	101.0%
診療科合計	16,557	105.6%	807	103.2%	処方件数	5,888	101.7%
					外来栄養相談支援	87	82.9%

◇診療所受診者（実人数）

区 分	令和 6 年度		前年度比	
	初 診	再 診	初 診	再 診
医 科	625	3,512	103.8%	103.5%
歯 科	92	497	91.1%	98.4%

（２）地域療育相談室

相談支援グループは、こども発達センターの総合窓口として、お子さんの発達などご家族の育児に関する各種相談支援に努めました。また、西三河北部福祉圏域のコーディネート機関として豊田市心身障がい児早期療育推進委員会の運営や、障がい児等療育支援事業を実施し、地域のこども園・幼稚園、小・中学校のほか、各種福祉事業所への支援の充実など一層の地域支援に努めました。

【重点目標】

- ① 地域支援の拡充を図るため、地域園や学校のほか新たな連携先への訪問相談を強化します。
- ② 市の委託相談支援事業所の体制変更に伴い、連携の拡充を行い、相談支援専門員の質的向上を図ります。
- ③ 業務全般の効率化を図るため、相談記録様式および会議記録内容の見直しと初診予約方法の検討を行います。

【重点目標達成状況】

- ① ・市こども・若者政策課と連携を図り、放課後児童クラブの支援を強化しました。
また、訪問看護ステーションから現在の課題を聴取し、今後の連携について協議しました。
- ② ・地域自立支援協議会こどもチームに参加し、相談支援専門員を対象とした研修内容を検討・実施しました。
- ③ ・早期療育推進委員会の定例会及び個別支援検討会の会議録の簡素化を行いました。
・初診予約体制についてのぞみ診療所医師と毎月検討を行いました。

◇相談件数

延べ相談件数	月平均	前年度比
4,011 件	334 件	69.5%

■ 障がい児等療育支援事業

障がいのあるお子さんの地域における生活と発達を支えるため、療育支援、相談等に努めました。

事業名	延べ人数等	前年度比	備 考
訪問療育指導事業	26 回	72.2%	訪問相談等
外来療育支援事業（わくわく）	147 人	117.5%	登録者 47 人
施設支援一般指導事業	822 回	93.8%	講演会・事例検討会等
栄養相談	229 人	101.3%	

■ 巡回療育相談

地域の障がいのあるお子さん、療育関係者への支援及び啓発研修を実施しました。

◇事例検討

地 域	対象施設	園数（延べ）	回 数	対象児
豊田市	公私立こども園、私立幼稚園	189 園	275 回	412 人
みよし市	公私立保育園、私立幼稚園	7 園	8 回	8 人
合 計（前年度比）		196 園 (99.0%)	282 回 (91.6%)	420 人 (94.6%)

◇地域支援事業派遣スタッフ（延べ人数）

（単位：人・％）

	児童精神科医	小児整形外科医	小児神経科医	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	支援員	相談員	保健師・看護師	歯科衛生士	管理栄養士	スタッフ合計
訪問療育	0	0	0	0	1	1	2	2	11	11	0	0	28
前期巡回相談	0	0	0	0	15	22	80	15	68	7	0	0	207
後期巡回相談	0	0	0	0	10	19	69	26	70	6	0	0	200
随時巡回相談	0	0	0	2	5	2	19	0	15	0	0	0	43
園訪問	0	0	0	1	7	5	16	37	48	3	0	0	117
公開保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修講師	0	0	3	1	7	14	30	0	0	0	1	0	56
健診事後フォロー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	11
教職員向けケース支援	0	0	0	65	73	43	45	28	45	0	0	0	299
支援会議	0	1	1	1	2	2	5	1	7	0	0	0	20
みよし市療育研修	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2

	児童精神科医	小児整形外科医	小児神経科医	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	支援員	相談員	保健師・看護師	歯科衛生士	管理栄養士	スタッフ合計
みよし市療育支援	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	6
スタッフ合計	0	1	4	70	120	109	268	109	269	38	1	0	989
前年度比(%)	100	100	44.4	95.7	106.1	128.2	128.2	167.1	85.9	56.7	16.6	100	97.2

■ 障がい児相談支援事業所 オアシス

障がいのあるお子さん及びその保護者の方に対し、計画相談支援及び障がい児相談支援を適切かつ円滑に実施しました。

利用計画案作成件数	本計画作成件数	モニタリング 実施件数	家庭訪問件数
160 件	158 件	82 件	178 件

(3) そよかぜ（保育所等訪問支援事業）

医療的ケア児、外国籍の難聴児、重複障がいの難聴児等に対し、関係機関と連携し支援を行いました。

施設名	契約人数	利用児延べ総人数
なのはな	7 人	37 人
たんぽぽ	6 人	8 人
その他	1 人	9 人

(4) あおぞら

障がいの有無にかかわらず発達の支援を必要とする乳幼児の親子通園療育を週 1～2 回実施し、全体的発達を支援するとともに保護者の方への子育て支援を行いました。

【重点目標】

- ① 並行通園児や就園児の保護者や園のニーズに応じ、電話相談や園訪問などを行い地域園との連携を図ります。
- ② 1 歳 6 か月児健診から切れ目なく支援につながるよう 0 歳児の療育・支援方法について検討します。
- ③ 各種記録のデータ管理を紙ベースから電子化します。

【重点目標達成状況】

- ① ・こどもたちが安心して園生活が送れるよう、必要に応じてあおぞらと連携を図れる地域園向けの案内文を見直し、市の園長会、主任会で説明し、さらなる活用と周知を図りました。
・また、並行通園児の現状把握を行い、就園児支援とともに新たな実績表を作成しました。

- ② ・令和5年11月以降に1歳6か月児健診でおおぞらを紹介され見学をした保護者向けに行なったアンケートをもとに、0歳児の活動の場を試行的に行い必要性和重要性を再確認しました。
- ③ ・データ化に向けて残すべき各種記録を選別し、運用手順や方法について決定しました。

(5) おひさま

障がいの有無にかかわらず、発達の支援を必要とする乳幼児の親子通園療育を週1～2回実施し、全体的発達を支援するとともに保護者の方への子育て支援を行いました。

相談部門においては、南部地区在住の就学前までのお子さんの発達やご家族の育児に関する相談支援に努め、こども園等への訪問相談を行い地域支援の充実を図りました。

【重点目標】

- ① 並行通園児や就園児の保護者や園のニーズに応じ、電話相談や園訪問などを行い地域園との連携を図ります。
- ② 1歳6か月児健診から切れ目なく支援につながるよう0歳児の療育・支援方法について検討します。
- ③ 子育て支援センターと継続した連携ができるように、訪問相談や情報交換の充実を図ります。
- ④ 各種記録のデータ管理を紙ベースから電子化します。

【重点目標達成状況】

- ① ・こどもたちが安心して園生活が送れるよう、必要に応じておひさまと連携を図れる地域園向けの案内文を見直し、市の園長会、主任会で説明し、さらなる活用と周知を図りました。
・また、並行通園児の現状把握を行い、就園児支援とともに新たな実績表を作成しました。
- ② ・令和5年11月以降に1歳6か月児健診でおひさまを紹介され見学をした保護者向けに行なったアンケートをもとに、0歳児の活動の場を試行的に行い必要性和重要性を再確認しました。
- ③ ・南部地区の子育て支援センターで行う育児講座を2か所に広げ、計3回実施しました。また訪問相談（4件）の他に、支援センターのスタッフと連携し、開放、相談や療育など、ニーズに合わせた利用ができるように支援しました。
- ④ ・データ化に向けて残すべき各種記録を選別し、運用手順や方法について決定しました。

◇あおぞら・おひさま利用児

	登録人数	前年度比	延べ 利用児数累計	月平均	前年度比
あおぞら	400 人	80.2%	10,269 人	856 人	90.6%
おひさま	236 人	99.2%	5,666 人	472 人	96.5%
合 計	636 人	86.3%		1,328 人	

◇あおぞら・おひさま利用児の年齢

施設／年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児
あおぞら	0 人	166 人	200 人	34 人	0 人
おひさま	4 人	90 人	124 人	18 人	0 人

注：年度末の状況

◇あおぞら・おひさま利用児の性別

施設／性別	男	女	合 計
あおぞら	267 人	133 人	400 人
おひさま	164 人	72 人	236 人

注：年度末の状況

◇あおぞら・おひさまの進路

(単位：人)

施設／進路	こども園	私立 幼稚園	ひまわり	なのはな	たんぽぽ	託児所	家 庭	転 居	保健師へ依頼 (音信不通)	継 続	
										あおぞら	おひさま
あおぞら	102	109	7	13	0	12	28	12	0	115	2
おひさま	97	32	6	6	0	4	8	9	0	1	73

◇就園児支援件数

	訪問支援	電話相談	合計	令和 5 年度就園児数
あおぞら	1 件	6 件	7 件	248 人
おひさま	2 件	17 件	19 件	132 人

◇おひさま相談件数

延べ相談件数	月平均	前年度比
996 件	83.0 件	77.0%

(6) なのはな (定員 30 人)

◆なのはなグループ

超早期 (0 歳) から就学前までの難聴児に対し、個々の子どもの聴力や発達に合わせた療育を行いました。

【重点目標】

- ① 園児の人工内耳術後のプログラミングへの同行や、人工内耳プログラミングの研修を職員に実施し、人工内耳装用児の支援体制を充実させます。
- ② これまでの保育所等訪問支援事業の評価と検討を行い、今後の支援の充実に繋がります。
- ③ 療育形態や内容の検討を行い、0～2歳児の療育強化を図ります。
- ④ メール配信システムを活用して利用者の方への手紙等の配信を行うなど、今後のICT活用方法の検討を行います。

【重点目標達成状況】

- ① ・名古屋大学附属病院に通院している難聴児の人工内耳プログラミングに同席し、担当の言語聴覚士と聞こえの状態や今後の療育について情報共有を行いました。
・職員向けの研修や、人工内耳を装用している難聴児のケース検討会を毎月行い支援内容を充実させました。
- ② ・令和4、5年度に保育所等訪問支援事業を実施したこども園9園と幼稚園4園を対象にアンケート調査を行いました。調査結果をまとめ、令和7年度、言語聴覚士学会にて報告します。
- ③ ・子育て支援を含めた療育内容の検討や、活動や給食時に姿勢が整うように机や椅子の工夫をするなどの環境の整備を行いました。
- ④ ・毎月のおたよりや給食献立表をeメッセージで配信しました。行事等も保護者へeメッセージで配信し、連絡方法を周知しました。

◆ちょうちょ・とんぼグループ

一人ひとりのお子さんの発達段階と障がいの特性を考慮し、保護者の方との愛着関係を基盤に全体的発達を支える支援を行いました。また、保護者の方にお子さんの発達段階に合わせた関わり方をお伝えし、着実に親子関係が育つよう支援しました。

【重点目標】

- ① 療育的支援が必要なこどもが地域園に通う際の保護者ニーズと保育師ニーズの違いを把握し、移行児支援事業と保育所等訪問支援事業の充実を図ります。
- ② 利用児の発達を正しく評価し、5領域※をふまえた新たな「児童発達支援計画」を作成します。
- ③ メール配信システムを活用して利用者の方への手紙等の配信を行うなど、今後のICT活用方法の検討を行います。

【重点目標達成状況】

- ① ・移行児支援の対象児の通う園と保護者に連絡をとり、園に訪問しました。園生活における課題と支援の方法について情報共有しました。
・より手厚い支援が必要な対象児に保育所等訪問支援を行いました。
- ② ・令和6年7月に改訂された「児童発達支援ガイドライン」を確認し、5領域を踏まえた「児童発達支援計画」を作成しました。

- ③ ・毎月のお便りや休職献立表を e メッセージで配信しました。行事なども保護者へ e メッセージで配信し、連絡方法を周知しました。

◇なのはなグループ利用児

契約利用児数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
18 人	233 日	699 日	779 日	89.7%

◇ちょうちょ・とんぼグループ利用児

契約利用児数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
20 人	233 日	2,530 日	3,210 日	78.8%

注：「契約利用児数」は、施設と利用契約を締結した利用児数

「提供日数」は、施設の開設日数

「総利用日数」は、利用児が通園した利用日の合計

◇利用児の年齢

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
なのはなグループ	1 人	4 人	3 人	2 人	5 人	4 人
ちょうちょ・とんぼグループ	0 人	0 人	2 人	18 人	0 人	0 人

◇利用児の性別

	男	女	合 計
なのはなグループ	8 人	10 人	18 人
ちょうちょ・とんぼグループ	16 人	4 人	20 人

◇退園後の状況

	こども園	ひまわり	小学校	特別支援学校	継 続
なのはなグループ	0 人	0 人	3 人	1 人	14 人
ちょうちょ・とんぼグループ	14 人	6 人	0 人	0 人	0 人

◇移行児支援件数

訪問支援	電話・来訪相談	合計	令和 5 年度卒園児数
13 件	253 件	266 件	16 人

(7) たんぽぽ（定員 40 人）

1 歳から就学前までの運動発達に不自由さのあるお子さんに対し、一人ひとりの発達段階と心身の特性を考慮し、身体機能をはじめとする全体機能の発達を促して日常生活動作が習得できるよう支援しました。また、日々育児にあたる保護者の方に対し、保護者の役割とお子さんとの適切なかかわりの基本が習得できるように支援しました。

【重点目標】

- ① 利用児の発達を正しく評価し、5領域をふまえた新たな「児童発達支援計画」を作成します。
- ② 重症心身障がい児が並行利用している児童発達支援事業所と継続した連携がとれるように情報交換の方法を検討します。
- ③ 外来療育わくわくに登録後、保護者の就労等で利用ができないお子さんの様子をのぞみ診療所と共有し、外来療育の実施方法について見直しを始めます。
- ④ メール配信システムを活用して利用者の方への手紙等の配信を行うなど、今後のICT活用方法の検討を行います。

【重点目標達成状況】

- ① ・療育、診療、個別療法、発達検査結果から利用児の発達を評価し、7月に改訂された「児童発達支援ガイドライン」を確認し、「児童発達支援計画」を作成しました。
- ② ・利用児が並行利用する8事業所間で、管理者会議（5月）や施設見学（7～11月）、研修会（10月）を実施しました。また、毎月末に利用児の利用日数や支援内容の情報共有を実施しました。
- ③ ・センター利用状況の把握や適切に進路支援ができるように情報の共有方法を見直しました。また保護者の就労等で地域園を検討しているお子さんに療育の機会が提供できるように、次年度のわくわく開催日を拡大しました。
- ④ ・保護者への手紙をメール配信したり、園児写真をインターネット販売に変更したりしたことで業務時間の削減につながりました。配信された手紙や写真が適時に確認でき、保護者に好評でした。

◇利用児

契約利用児数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
36人	246日	2,363日	3,818日	61.9%

注：各項目については、「なのはな」の脚注に同じ。

◇利用児の年齢

年 齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
人 数	0人	2人	10人	15人	3人	6人

◇利用児の性別

性 別	男	女	合 計
人 数	20人	16人	36人

◇退園後の状況

進路	こども園 保育園	私立 幼稚園	ひまわり	なのはな	地域 小学校	豊田特別 支援学校	三好特別 支援学校	転居	死亡	継続
人数	3人	0人	5人	0人	1人	5人	0人	0人	1人	21人

◇移行児支援件数

訪問支援	電話・来訪相談	合計	令和 5 年度卒園児数
1 件	15 件	15 件	3 人

(8) ひまわり（定員 50 人）

3 歳から就学前までの知的発達がゆっくりなお子さんに対し、一人ひとりのお子さんの発達段階と障がい特性を考慮して、情緒の安定を図りつつ発達を支援しました。また、日々育児にあたる保護者の方に対し、保護者の役割とお子さんとの関わりの基本を習得し、適切な子育てができるよう支援しました。

【重点目標】

- ① 遊びを中心とした支援力の向上を目指して施設内研修を企画し、日々の療育や地域支援に活かします。
- ② 令和 6 年度より改定となる「児童発達支援計画」の 5 領域の捉え方について共通理解を深め、こどもの発達に見合った総合的な支援を提供します。
- ③ 児童発達支援事業所向けの研修や療育実習を実施し、事業所との連携を強化します。
- ④ メール配信システムを活用して利用者の方への手紙等の配信を行うなど、今後の ICT 活用方法の検討を行います。

【重点目標達成状況】

- ① ・職員を 4 つのチームに分けて遊びの検討を実施し、12 月に全チームの成果を発表しました。発表ではこどもたちの様子や工夫した事柄を報告し合い、1 月以降の遊びへの支援や移行児交流に活かしました。
- ② ・改定となった児童発達支援計画の書式を使用して計画を作成しました。記入上の注意点を確認し、一人ひとりに応じた計画を作成しました。計画見直し時には、計画作成のブラッシュアップを実施し、理解を深めました。
- ③ ・児童発達支援事業所との連携強化を目指し、2 月～3 月に 6 事業所 8 回の見学実習・情報交換会を実施しました。豊田市、岡崎市、安城市の事業所が参加しました。
- ④ ・e メッセージアプリを使って毎月のおたより、クラスだより、献立、バスの運休連絡や保護者会に関する連絡などを配信しました。インターネットを使っでの写真販売へと変更し、業務削減につなげました。

◇利用児

契約利用児数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
50 人	233 日	8,363 日	9,305 日	89.9%

注：各項目については、「なのはな」の脚注に同じ。

◇利用児の年齢

年 齢	3 歳児	4 歳児	5 歳児
人 数	13 人	23 人	14 人

◇利用児の性別

性 別	男	女	合 計
人 数	39 人	11 人	50 人

◇退園後の状況

進 路	地域園	小学校特別 支援学級	三好特別 支援学校	瀬戸つばき 特別支援学校	豊田特別 支援学校	転出	継続
人 数	15 人	6 人	8 人	0 人	0 人	1 人	20 人

◇移行児支援件数

訪問支援	電話来訪相談	合計	令和 5 年度卒園児数
17 件	198 件	215 件	27 人

(9) その他

■ 豊田市こども発達センター・公開セミナー

障がいに関する啓発を目的として、市民・支援者を対象に年 1 回の公開セミナーを開催しています。令和 6 年度は「ともに暮らし ともに歩む～きょうだいの想いと支援～」とし、こども発達センターで開催しました。148 名の参加がありました。

■ こどもひろば利用者の状況

利用日数	延べ利用者数	1 日平均	月平均	前年度比
211 日	774 人	3.7 人	64.5 人	77.0%

注：前年度比は延べ利用者数で算出

■ こどもひろばボランティア参加者の状況

活動日数	延べ参加人数	1 日平均	月平均	前年度比
211 日	724 人	3.4 人	60.3 人	90.0%

注：前年度比は延べ参加人数で算出

■ 視察者の状況

社会状況をみながら外部機関からの視察の受入れを再開しました。崇化館地区民生委員や千葉縣市川市議会議員等の視察を受け入れました。

件 数	人数	1 団体平均	月平均
18 件	183 人	10.2 人	15.3 人

■ 講師派遣

関係機関からの依頼等により、各種研修会で講演を行いました。

派遣職種	対象者	講演内容等	回数
医 師	当事者家族、医療関係者、教員、学生	自閉症基礎講座、医療的ケア、乳幼児の食べる機能の発達とその支援、てんかん市民講座など	9 回
理学療法士、作業療法士 言語聴覚士、臨床心理士等	保育士、幼稚園教諭 保健師、学生、教員 保護者等	子どもの発達に関する勉強会、障がい児分野の仕事の理解、読み書きが苦手な児童への支援など	37 回
合 計 (前年度比)			46 回 (100%)

■ 研究発表（学会発表）

第 23 回 ISS（乳幼児けいれん研究会・国際シンポジウム 5 月、名古屋市）、第 58 回日本発達障がい学会（10 月、横浜市）、第 49 回日本重症心身障がい学会（11 月、神戸市）で 3 件の研究発表を行いました。

〔2〕障がい者総合支援センター

「第 3 次豊田市福祉事業団推進計画」の各事業を推進する初年度として、障がい者総合支援センター全体の課題である利用者の重度化・高齢化等、多様化に対応した個別支援ができるよう、センター各施設の課題の共有を行いました。

総合支援センター各施設がそれぞれの専門性を発揮しながら、関連機関や事業所と一層の連携を図るとともに、強度行動障がい支援者養成研修（基礎及び実践）や喀痰吸引研修（基礎及び実地）を開催し、市内全体の事業所の支援力向上を図り、豊田市における障がい者支援の中核的機能を果たしました。

市内の就労支援機関（就労移行支援事業所や就労継続支援 A 型事業所）との情報交換会や研修会を開催し、ネットワークの強化に努めました。加えて、新たな取り組みとして「ワークダイバーシティ実証化モデル事業」へ参画し、障がい者手帳をお持ちでない、生きづらさや働きづらさを抱える方の就労支援（実習の受け入れや就職活動支援）も実施しました。

また、令和 6 年度は大きな福祉サービス等報酬の改定がありましたが、その要件等を確実に把握し、適切に対処することができました。

【重点目標】

- ① 障がい者手帳（以下「手帳」）をお持ちの方だけでなく、手帳を取得されていない働きづらさを抱える方に対して、けやきワークスと就労・生活支援センター一体となって就労体験の提供や相談支援を実施します。
- ② 障がい福祉分野の支援者育成事業を継続実施し、市全体の障がい福祉の支援力の向上を目指します。障がい者支援職員研修会では新たに応用編を加え実施するほか、強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修・実践研修）、喀痰吸引研修を継続して実施します。

【重点目標達成状況】

- ① ・手帳を取得されていない働きづらさを抱える方を、「ワークダイバーシティ実証化モデル事業」の実習生としてけやきワークスにおいて 7 月から受入れ、実習後の進路や進め方の手順について相談支援を実施しました。
・また、その実習生についての支援状況やご本人の様子、今後の方向性を就労・生活支援センターとけやきワークスで情報共有し、ケース検討を実施しました。
- ② ・9 月より障がい者支援職員研修をコース別に開催しました。研修の内容に合わせ、オンラインや対面など開催方法を工夫しました。
・市内事業所対象に強度行動障がい支援者養成研修を開催し、7 月の基礎研修は 27 名、11 月開催実践研修は 12 名が参加しました。
・喀痰吸引研修については基礎研修を 6、9、11 月に、実地研修を各事業所で実施しました。

（１）就労・生活支援センター

従来の支援事業に加え、平成 22 年度から西三河北部福祉圏域における「障がい者就業・生活支援センター事業」を受託し、障がいのある方の雇用支援と就労支援事業を拡充しています。また、障がいのある方が地域で自立した生活を送れるように、就労継続支援 A 型支援事業所との情報交換会を新たに立ち上げるなど、関係機関と連携して相談や助言などの支援を行いました。

【重点目標】

- ① 就労支援機関全体の支援力の向上のため、就労移行支援事業所を対象にした研修会や会議を開催します。また、労働機関、医療機関、福祉機関、教育機関など関係諸機関とのネットワークを推進します。
- ② 障がい者の法定雇用率引上げに伴う企業からの雇用相談に応じ、会社訪問や企業内研修の開催等の企業支援を行い、障がいのある方の雇用を推進します。
- ③ 障がい者手帳を取得されていない働きづらさを抱える方に就労相談を実施して就労支援モデル事業所の情報提供を行います。また、関係する事業所との連携を図ります。

【重点目標達成状況】

- ① ・10 月 3 日に開催されたハローワーク主催の障がい者雇用サポートフェアに、就労移行支援事業所と連携し、参加しました。
・豊田市内の就労継続 A 型事業所の情報交換会を 2 回開催しました（9/19 に 8 事業所 15 名の参加、1/30 に 5 事業所 11 名、関係機関 3 事業所 5 名の参加）。
・就労移行支援事業所向けの研修会を 11/28 に開催しました（9 事業所 18 名の参加）。情報交換機会を 3/6 に開催しました（9 事業所 16 名の参加）。
- ② ・企業からの障がい者雇用（採用や対応方法についてなど）の相談を延べ 499 件受けました。
・5 社から依頼を受け、社内の研修講師を 9 回実施しました。

- ③ ・ワークダイバースタイルとの打ち合わせやワークダイバー主催の研修会に参加しました（4/5、5/26、6/27、9/30、10/24、2/10、2/27）。
- ・ワークダイバー担当者と個別ケースの支援検討と情報交換、けやきワークスと受け入れケースの情報共有を実施しました。

◇関係機関協働事業

事業名	事業内容
企業内研修	「障がいのある方の定着支援」「知的障がい、発達障がいについて」等 対象：障がい者雇用による社員、配属部署社員及び管理職 9回開催
障がい者雇用支援セミナー	講演「メンタルヘルスケアにおける産業保健師の活動」 講師 株式会社 Interaction 大矢美千瑠氏 ■12月12日 参加企業14社 (みよしはたらく相談センター、豊田公共職業安定所との共催)

◇人材育成研修事業

事業名	事業内容
発達障がい者支援者研修	講演「大人の発達障がいについて」とグループワーク 講師 就労・生活支援センター職員 ■1月28日 豊田市福祉部及び人事部職員ほか関係機関職員22名参加 (豊田市障がい福祉課との共催)
就労移行支援事業所職員研修	講演「対人援助の基礎」 講師 南豊田病院 PSW 部長 成瀬 智氏 ■11月28日 豊田市及びみよし市就労移行支援事業所職員18名参加 講演「日頃の業務の悩み事」を題材にしたグループワーク ■3月6日 豊田市及びみよし市就労移行支援事業所職員17名

◇総合相談事業

事業名	実 績
総合相談窓口	相談件数 4,500件 新規登録者数145人（身体17人、知的58人、精神63人、その他7人）

◇就労支援事業

事業名	実 績
職場開拓	105社（うち新規18社）、訪問376件
就職者	60人（身体5人、知的30人、精神25人） 豊田市54人、みよし市1人、圏域外5人
企業訪問等による職場定着支援	訪問439件 企業訪問137社

(2) けやきワークス（定員50人）

おおむね18歳以上で身体障がい、知的障がい、発達障がいのある方を対象に支援を行いました。主たる介護者の高齢化や利用者の方の加齢に伴う機能低下により、送迎が困難になったり、介助が必要になったりといった課題について、ご本人の意志決定を第一に丁寧な支援を行いました。また、復職支援や手帳を取得されていない方への就労支援にも努めました。

【重点目標】

- ① 「ワークダイバーシティ実証化モデル事業」（働きづらさを抱える人を対象にした就労支援モデル事業）に協力することにより、高次脳機能障がいの方や若年性認知症の方だけでなく、手帳を取得されていない生きづらさや働きづらさを抱えている方が、地域で生活が続けられるきっかけの場となれるよう、受け入れを進めます。
- ② 高齢化が進む利用者の方に対して介護保険制度との併用や移行をニーズに基づいて進めます。また、職員が介護保険や高齢福祉、成年後見制度に関する学習や情報収集を行い制度の理解を深め、利用者の方のニーズにきめ細かく対応できるように努めます。
- ③ インスタグラムなどのSNSをより積極的に活用し、けやきワークスとしてのPR方法を定着させるとともに、時代に即した商品開発や販路拡大を図り、今後も全ての利用者の方が働き続けられる作業を提供していきます。

【重点目標達成状況】

- ① ・ワークダイバーシティ実証化モデル事業での実習生を7月から1名受け入れ、定期的に実習の振り返りや今後の方向性について話し合い、12月からは就職に向けた支援も実施し、会社訪問や面接練習を行いました。モデル事業の利用期間は令和6年7月から令和7年1月末までですが、3月以降も相談支援を続けています。将来的には、けやきワークスの利用者となっていただくことで、就労支援を継続していくことを考えています。
・復職を希望する高次脳機能障がいの方の実習を受け入れ、生活リズムの調整や体力の向上を図りました。ご本人及びご家族の方に支援について高く評価していただき、10月からは就労移行支援事業を利用し、12月には復職が実現しました。
- ② ・高齢化が進む利用者の方に対して、介護保険制度との併用の前段階として、送迎サービスや入浴サービスのある生活介護との並行利用を進めました。
・家族が高齢化している利用者の方にグループホームの見学や送迎付きの就労継続支援B型事業所への見学をしていただきました。ご本人やご家族の意志により、1名の方が他事業所のサービス利用を決められました。
・権利擁護推進シンポジウムやたよりん主催の介護保険制度に関する家族勉強会に職員が参加し、制度の理解を深めました。
- ③ ・パンやTシャツ、縫製製品などの新商品を積極的にInstagramで紹介し、PRできました。フォロワー数は600近くになっています。

- ・多くの工程で利用者の方々が作業に関わることができる商品として、新たに革細工を使った商品を開発しました。
- また、パン販売では、企業内のカフェへの毎日の納品が続いています。

◇利用者

事業	契約利用者数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
就労移行支援事業	10 人	240 日	1,373 日	1,531 日	89.7%
就労継続支援 B 型事業	33 人	240 日	6,563 日	7,660 日	85.7%

注：「契約利用者数」は、施設と利用契約を締結した利用者数

「提供日数」は、施設の開設日数

「延べ利用日数」は、利用者が通所した利用日の合計

◇利用者の年齢

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	平均年齢
就労移行支援事業	2 人	5 人	2 人	0 人	1 人	27.2 歳
就労継続支援 B 型事業	0 人	7 人	8 人	11 人	7 人	41.0 歳

注：「年齢」は、利用中止時又は令和 7 年 3 月 31 日現在

◇利用者の性別

性別	男	女	合計
就労移行支援事業	7 人	3 人	10 人
就労継続支援 B 型事業	18 人	15 人	33 人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳				精神障がい者 保健福祉手帳
	A 判定	B 判定	C 判定	1 級	2 級	3 級	4 級	2 級
就労移行支援事業	3 人	1 人	2 人	0 人	2 人	0 人	0 人	2 人
就労継続支援 B 型事業	11 人	11 人	5 人	3 人	5 人	4 人	0 人	0 人

注：「障がい者手帳保持状況」の療育手帳と身体障がい者手帳は重複あり

◇利用中止の状況

理由	在宅	就職	その他	合計
就労移行支援事業	1 人	3 人	2 人	6 人
就労継続支援 B 型事業	0 人	0 人	3 人	3 人

注：その他は、利用者の長期入院等による利用中止など

(3) 第二ひまわり（定員 55 人）

おおむね 18 歳以上の知的障がいのある方を対象に、一人ひとりの特性や個性にあった活動に取り組み、日々の生活の充実と社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- ① 強度行動障がいのある方に対する市全体の支援力の向上を目指し、豊田市との共働し関連機関と連携しながら支援体制の整備、支援者養成研修の実施、困難ケースへの個別の支援などを行います。
- ② 利用者の方の障がい特性や支援方法について振り返り、どの職員でも同じ水準で利用者の方を支援できるよう、支援方法を記載した支援手順書を見直します。
- ③ 第二ひまわりのことを理解していただけるような施設紹介パンフレットを作成し、施設の魅力を発信します。

【重点目標達成状況】

- ① ・強度行動障がい支援者養成研修基礎研修と実践研修を各 1 回ずつ行い、合計 39 名の方が受講しました。
・専門支援員派遣事業では 3 ケース実施し、困難ケースの受け入れに対して、専門支援員がサービス担当者会議に参加しました。
・医療と福祉の連携の観点より市内精神科 4 病院の聞き取り調査を行い、実態と課題の分析を行いました。
- ② ・全利用者の冰山モデルシートを作成して職員共通の支援手順書が完成しました。
・2 月には作成した冰山モデルの発表会を、施設内研修として行いました。
- ③ ・パンフレットを全面刷新しました。
・刷新したパンフレットを今後、第二ひまわりのことを理解してもらうためのツールとして発信します。

◇利用者

契約利用者数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
53 人	240 日	10,454 日	11,644 日	89.8%

注：各項目については、「けやきワークス」の注に同じ

◇利用者の年齢・性別

年 齢	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	平均年齢	男	女
人 数	0 人	13 人	14 人	17 人	8 人	1 人	38.8 歳	35 人	18 人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳		身体障がい者手帳					
	A 判定	B 判定	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
人 数	52 人	1 人	5 人	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人

◇障がい支援区分

区 分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	非該当
人 数	0 人	0 人	0 人	3 人	18 人	32 人	0 人

◇利用中止の状況

理 由	通所施設	グループホーム (日中支援型)	障がい者 支援施設	死 亡	家 庭	合 計
人 数	2 人	2 人	0 人	1 人	0 人	5 人

(4) 暖（定員 36 人）

おおむね 18 歳以上の重症心身障がいのある方を対象とした生活介護事業として、日中活動を通して、健康状態を保ち充実した毎日が過ごせるよう支援し、社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- ① 利用者の方の加齢変化を的確に捉えて対応できるよう、現行のアセスメントシートの見直しと、状態変化に合わせた活動の提供を実施します。
- ② 利用者の方がより快適に過ごせる環境や、より充実した活動が提供できる環境を検討し、すぐできる改善策と修繕工事が必要な内容を整理して対応します。

【重点目標達成状況】

- ① ・現行のアセスメントシートの見直しを 9 月中に行いました。10 月からの個別支援会議の全体会で活用し、状態の変化の把握と来年度の活動の提供に向け、必要な項目の追加などを行いました。
- ② ・6 月までに修繕が必要な環境について意見を集約し、7 月に環境整備の優先順位を長期計画、中期計画、短期計画に分けました。令和 6 年度予算の調整をし、水回りを中心に必要な修繕を実施しました。計画に基づき、令和 7 年度予算を計上しました。

◇利用者

契約利用者数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
31 人	240 日	5,277 日	5,994 日	88.0%

注：各項目については、「けやきワークス」の注と同じ

◇利用者の年齢・性別

年 齢	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	平均年齢	男	女
人 数	1 人	7 人	5 人	17 人	1 人	37.7 歳	13 人	18 人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	C判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人 数	30人	0人	1人	22人	6人	3人	0人	0人	0人

◇医療的ケア必要者（実人数は15人）

ケアの種類	呼吸器	排痰補助装置	エアウェイ	気管切開の管理	喀痰吸引	経管栄養	導 尿	血圧管理
人 数	6人	2人	1人	4人	10人	12人	3人	1人

◇障がい支援区分

区 分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当
人 数	0人	0人	0人	0人	1人	30人	0人

◇利用中止の状況

理 由	通所施設	入所施設	死 亡	家 庭	合 計
人 数	2人	0人	0人	0人	2人

（5）グループホーム喜多ハウス（定員7人）

知的障がいのある入居者の方に、安心感のある家庭的な生活の場を提供し、住み慣れた地域で自分らしく自立した生活を過ごしていただくために、就労や日中活動及び日常生活上に生じる個々の相談や必要性に応じた支援を実施しました。

【重点目標】

- ① 関係機関とケース会議を実施し、連携・協力して利用者の方の生活状況や状態の変化に対応した包括的な支援を行います。
- ② グループホームでの生活に彩りを添えるような、利用者の方が主体的に参加できる集まりや一緒に楽しむ機会を企画し、支援します。

【重点目標達成状況】

- ① ・1名の方について、相談支援事業所、通所する施設など関係機関と定期的にケース会議を行い、生活状況の確認、金銭管理などの話し合いを行いました。その他の方は、必要に応じ相談支援事業所等の関係機関と連絡を取り情報共有をしました。
- ② ・地域住民に声をかけ喜多ハウスの見学会を開催しました(8/14)。見学会の後に、利用者の方のご家族によるオカリナとギター演奏会を開催し入居者の方と楽しみました。また、木管アンサンブル「リブレ」さんをボランティアでお招きし、楽器の生演奏を楽しみました(10/19)。
・年明けには、利用者の方と一年の目標を話し合うとともに、書初め会を行いました(1/15)。

◇利用者・年齢・性別

年 齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	平均年齢	男	女
人 数	0人	1人	1人	2人	0人	48.8歳	4人	0人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳		身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人 数	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

◇障がい支援区分

区 分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当
人 数	0人	0人	0人	1人	0人	0人	3人

* 4名中3名は、障がい支援区分認定が不要なサービスのみを利用しているため非該当

(6) たよりん

総合支援センターの各通所施設利用者の方120名を主な対象とした指定特定相談支援事業所として、重症心身障がいや強度行動障がいのある方への支援の専門性を活かし、その人らしい生活が実現できるよう関係機関との連携を図り、障がい福祉サービスの調整を行いました。

【重点目標】

- ① 親亡き後のことをご本人とご家族が具体的に検討できるよう、成年後見支援センターのアドバイザーに相談できる機会を継続的に設けます。また、高齢の利用者のご家族には、介護保険制度やその他の利用できるサービスなどを紹介します。
- ② 利用者の方の重度高齢化、主たる介護者であるご家族の高齢化に伴う生活環境の変化などにより、多様な対応が必要となっている現状を総合支援センター内で共有し、センター内で対応できない課題を豊田市の地域課題として整理します。

【重点目標達成状況】

- ① ・成年後見支援センターのアドバイザーに相談できる勉強会を開催し、16名のご家族が参加しました（10/1、10/2）。
 - ・介護保険制度の勉強会を開催し、14名のご家族が参加しました（9/19）。
 - ・成年後見支援センターへの同行支援を6件実施しました。6件中1件については後見利用を開始し、2件については申し立てを行いました。
- ② ・各施設で共通する課題を確認し、対応方法を共有するために、課題共有検討会を暖（7/29）、第二ひまわり（9/18）、けやきワークス（10/18）、就労生活支援センター（11/19）で開催しました。また、「加齢変化と支援について」をテーマに職員向け勉強会を開催しました（10/21）。
 - ・自立支援協議会の北部、東部、中部地区のサポート連絡会に参加し、地域課題を共有しました。

利用計画案作成	本計画作成	モニタリング報告書	基本相談	サービス利用調整
165 件	161 件	254 件	593 件	156 件

(7) その他

ア 視察者の状況

通園施設の利用児の保護者、企業の障がい者雇用担当者、特別支援学校の教員、障がい福祉サービス事業所職員などの視察を受け入れました。

件 数	人数	1 団体平均	月平均
11 件	122 人	11.1 人	10.2 人

イ 職員派遣

関係機関からの依頼などにより、介助方法などの伝達研修や各種研修会で 17 講演を行いました。

派遣職種	対象者	講演内容等	件 数
支援員、就労支援員	施設職員、市職員、企業社員 学生、保護者等	障がい特性と支援、福祉の仕事、 障がい者雇用について 等	25 件
看護師、理学療法士 作業療法士	施設職員、教員、訪問看護 師、保護者等	障がい特性、食事や姿勢運動機能 の基礎知識、介助方法 等	7 件
合 計			32 件

4 事務局

(1) 総務担当

安定した法人運営を図るため、有能な人材確保とともに、階層別研修等の実施による人材育成方針の具体化など、効率的な運営と経営基盤の強化に努めました。

【重点目標】

- ① 利用される方へ安定して支援が実施できるように必要な人員の確保や適正な人員配置に努めます。また、優秀な人材を確保するため、情報発信を充実して福祉事業団の事業内容や特色を広く知ってもらい、応募人員の増加につなげます。
- ② 事務の効率化を進めるための仕組みを導入し、職員の負担感を軽減して健康増進やワークライフバランスの実現をめざすとともに、適切な労務管理に努めます。
- ③ 事業団内外の研修を通して必要な知識の習得や見識を高め、利用者の方への支援の質の向上を図ります。

【重点目標達成状況】

- ① ・令和6年度は、合計3回の次年度採用試験を実施し、正規職員4名、特定業務職員5名が内定しました。
・退職による欠員が発生した場合、迅速に市への調整依頼及び臨時職員の応募を行い、8名の限定職員、16名の臨時職員を雇用しました。
・採用情報は、ホームページから取得されることが多数を占めていることから、ホームページの募集ページの充実等を検討しました。
- ② ・次年度から、職員の出退勤管理を現在の紙による管理からシステム管理へ移行できるよう、勤怠管理システムの導入を行いました。
・令和7年度からの本格運用開始に向けて、設定作業を開始しました。
- ③ ・豊田市福祉事業団職員の育成方針に基づき、勤続年数や職位別に適切な研修メニューを受講し、知識の習得や見識を高めるなど、支援の質の向上を図りました。

(2) 管理担当

事業団各施設に安全で質の高い給食を提供するとともに、食育支援に努めました。

こども発達センターを利用される方に快適に利用してもらえるよう、施設的环境を整えました。

【重点目標】

- ① こども発達センターの防災・防犯対策における職員の基本的な対応を再認識するとともに、利用者の方の安全確保についての課題を抽出します。
- ② こども発達センターを訪れる方々に常に適切な情報と案内ができるよう、管理方法を見直し館内の景観の維持に努めます。
- ③ 給食提供のあり方の検討のために、利用者の方の施設外での食事内容の確認をするとともに、安全かつ効率的に給食が提供できるように調理員の業務分担を見直します。

- ④ 発達センター利用児に対する現在の給食の食物形態について関係部署とのカンファレンスを定期的に行い、多職種で再確認をして課題を抽出します。

【重点目標達成状況】

- ① ・防災啓発として、新規採用職員を対象に水消火器を使用した消火訓練を行いました。また、利用者の方と障がいのある職員の避難方法について、課題の洗い出しを行いました。防犯対策では7月に不審者対応の实地訓練を4年ぶりに行い、役割の確認や周知を行うことで防犯意識の向上を図りました。
- ② ・正面玄関入口に大型掲示板を設置して掲示物を集約させるなどの工夫をして、一目で見やすい情報提供を心がけました。また、屋内外掲示物の情報等の内容だけでなく色や絵柄等の見直しを行い、更新しました。
- ③ ・7事業所の食事調査を行い、栄養価を算出しました。
・調理業務を難易度別3段階に振り分けをし、業務分担の再構築を検討しました。
・調理員の出勤可能人数に合わせ、調理方法を平易になるよう変更し、下処理済み食品や合わせ調味料、半調理済み食品を積極的に活用しました。
- ④ ・関係部署とのカンファレンス、摂食嚥下に関する基礎知識の共有のための勉強会を行いました。
・多職種で発達センター給食の試食、意見交換を行い、課題を抽出しました。
・窒息リスクの高い食品を一覧化し、提供の見直しを行いました。

5 豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会

設置10年目を迎え、5件の申請に対して審査しました。委員会は、外部審査委員を交えた委員会を2回、迅速審査委員会（内部審査）を10回開催しました。

6 実習等の受け入れ

関係機関からの要請に応じ、大学生、専門学校生、教師、医療機関職員、障がい福祉サービス事業所職員等の実習及び、中学校や高等学校の生徒の福祉体験学習等の受け入れを行いました。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実習される方には2週間前からの体調と行動の記録を提出してもらうなど、必要な感染対策を講じた上で受け入れをしました。

■ 体験学習・福祉学習

学校・団体名	人 数	日 数	受入施設
小学校	0 人	0 日	
中学校（高岡、朝日丘、美里、豊南、石野、藤岡南）	11 人	13 日	ひまわり、けやきワークス
高等学校（豊田東、聖カピタニオ）	95 人	23 日	こども広場、ひまわり、第二ひまわり
特別支援学校（愛教大附属）	1 人	2 日	けやきワークス
豊田キャリアセンター、相談支援事業所	5 人	17 日	けやきワークス

学校・団体名	人 数	日 数	受入施設
合計（前年度比）	112 人 (131.7%)	55 日 (73.3%)	

■ 実習・研修

職 種	学校・団体名	人 数	受入日数
医師、歯科医師 臨床心理士	トヨタ記念病院、名古屋大学医学部附属病院、 松戸市こども発達センター、愛知県歯科医師会、 ファミリーメンタルクリニックほか	19 人	37 日
看護師	訪問看護事業所	10 人	5 日
学 生	臨床心理士	愛知教育大学	29 人 1 日
	看護師	東海大学医学部看護学科・大学院医学研究科 トヨタ看護専門学校	25 人 4 日
	歯科衛生士	三河歯科衛生専門学校 慈恵歯科医療ファッション専門学校	71 人 30 日
	理学療法士	東名古屋病院附属リハビリテーション学院	1 人 5 日
	作業療法士	名古屋大学、中部大学 東名古屋病院附属リハビリテーション学院	80 人 59 日
	言語聴覚士	日本福祉大学中央福祉専門学校	1 人 30 日
	社会福祉士	愛知県立大学、日本福祉大学ほか	12 人 200 日
	教員	中京大学、愛知教育大学	43 人 17 日
	保育士	桜花学園大学	2 人 10 日
職員研修	児童発達支援事業所見学実習・情報交換会、3 年 目保育師実習、加配保育士保育実習ほか	154 人	24 日
合 計 (前年度比)		447 人 (118.2%)	422 日 (87.3%)

(内訳) こども発達センター

職 種	学校・団体名	人 数	受入日数
医師、歯科医師	松戸市こども発達センター、精治療病院、 総合診療センターひなが、トヨタ記念病院、 名古屋大学医学部附属病院、愛知県歯科医師会	15 人	16 日
臨床心理士	ファミリーメンタルクリニック	4 人	21 日
看護師	訪問看護事業所	4 人	2 日
学 生	臨床心理士	愛知教育大学	29 人 1 日
	看護師	トヨタ看護専門学校	20 人 3 日
	歯科衛生士	三河歯科衛生専門学校 慈恵歯科医療ファッション専門学校	71 人 30 日
	理学療法士	東名古屋病院附属リハビリテーション学院	1 人 5 日
	作業療法士	名古屋大学、中部大学 東名古屋病院附属リハビリテーション学院	79 人 54 日

職 種		学校・団体名	人 数	受入日数
	言語聴覚士	日本福祉大学中央福祉専門学校	1 人	30 日
	社会福祉士	中京大学、愛知教育大学	4 人	53 日
	教員	中京大学、愛知教育大学（特別支援教育）	18 人	7 日
	保育士	桜花学園大学	2 人	10 日
保育士、支援員ほか		児童発達支援事業所見学実習・情報交換会、6 市療育者会職員研修会、3 年目保育師実習、加配保育士保育実習	154 人	24 日
合 計			402 人	256 日

(内訳) 障がい者総合支援センター

職 種		学校・団体名	人数	受入日数
看護師		訪問看護事業所	6 人	3 日
学 生	看護師	東海大学医学部看護学科・大学院医学研究科	5 人	1 日
	作業療法士	中部大学	1 人	5 日
	社会福祉士	愛知県立大学、日本福祉大学、中京大学 東海医療科学専門学校	8 人	147 日
	教員	中京大学	25 人	10 日
合 計			45 人	166 日

7 ボランティア活動

今年度も多数のボランティアのご協力をいただきました。

活動施設	活動内容	活動回数	延べ活動人数	活動団体・個人
こどもひろば (再掲)	園児等の兄弟姉妹の託児	211 回	774 人	学生、個人他
あおぞら	グループ懇談会時のこどもの託児	50 回	65 人	ボランティアグループ とまと
おひさま	グループ懇談会時のこどもの託児	28 回	80 人	ボランティアグループ とまと
たんぽぽ	利用児の整髪等、コンサート	20 回	35 人	美容ボランティア ムジカママン
ひまわり	療育ボランティア	2 回	2 人	桃陵高校
第二ひまわり	除草作業、リズム活動 コンサート	42 回	67 人	崇化館地区民生委員 豊田ゴスペルクワイア
暖	コンサート	10 回	68 人	響鼓&木瀬ダムビートルズ 豊田中日相撲甚句会ほか 10 団体
合 計 (前年度比)		363 回 (118.2%)	1,091 人 (103.2%)	